

# 令和元年度第1回 奈良県学校・地域パートナーシップ事業 地域コーディネーター連絡会実施報告書

- 1 日時 令和元年6月27日(木) 10:00~12:00
- 2 会場 奈良県産業会館5階 大会議室
- 3 参加者 学校・地域パートナーシップ事業における地域コーディネーター 計90名
- 4 内容 10:00~10:05 開会  
10:05~10:20 説明「地域と共にある学校づくり」について  
10:20~11:00 講義「コーディネーターにとって大切なこと」  
文部科学省CSマイスター、河内長野市立美加の台中学校ゆめ☆まなびネット学校支援コーディネーター  
大谷 裕美子  
11:00~11:55 ワークショップ・ふり返り  
11:55~12:00 閉会

## 5 講義概要

- ・コミュニティ・スクールとは、今、コーディネーターの方々がなされている活動が基本となって運営されていくものであり、今あるものを置き換えるのではなく、今あるものを進化させると考えていただきたい。
- ・コミュニティ・スクールでは、学校運営協議会を設置し、学校や子どもの課題を学校と地域とが共有し、課題に対する建設的な方策を皆で考えて協議し、具体的な取組を提案します。子どもたちへの教育について目標をもち、その達成のために何をすべきかといった議論は、今までは学校の先生だけでやられてきたが、コミュニティ・スクールという仕組みでは、地域の皆さんの言葉が取り入れられます。そこでキーパーソンとなるのが、コーディネーターの方々です。学校運営協議会での議論をうけて、コミュニティ協議会を動かす、自転車のペダルがコーディネーターの役割です。
- ・コーディネーターと学校・教師との信頼関係は簡単にできるものではなく、努力が必要です。コーディネーターに相談すれば大丈夫という経験を徐々に積み上げ、そして、学校・子どもたちと一緒に取組の成功体験を共有する、同じ景色を見ることが大切です。
- ・現在、学校の授業が変化しています。その中でも、地域がサポートできる場面があり、地域人材を学校に繋ぐことで先生方も助かります。さらに、社会に開かれた教育課程により、学校と地域との距離感はさらに近くなり、学校での教育内容や目的に対して地域の人々も意識することが大切になります。
- ・地域コーディネーターにとって大切なことは、コミュニケーション・ファシリテーション・インフォメーション・リフレクション・クッションです。「できる人が・できる時に・できる事をたのしく」取り組んでいきましょう。



## 6 ワークショップ・振り返り

- ・「どんな子どもに育てほしいか」についてグループで出し合い、目標を共有しました。
- ・現在、各校で行っている取組を出し合い、その取組が「学校の門の外」「学校の門の中」「教室の中」のどの場所で行われているかを分けた後、「教室の中」、すなわち教育課程に入り込んだ取組が少ないことを全員で確認し、「教室の中」まで入った取組としてどのようなものが考えられるか、コーディネーターとして何ができるかを考え、全体で交流しました。
- ・取組を可視化し、足りない部分(課題)を意識することで次の取組や実践につなげることができ視点をいただくことができました。



## 7 感想

- ・日常取り組んでいる事が地域と繋がっていることに気づくことができました。これからどうふくらませていくか考えるきっかけになりました。
- ・実践的な大谷さんの話を伺えてよかったと思う。今後も是非具体的な取組から学びたい。
- ・コーディネーターの方の意見が聞けたのでとても良かったです。もっと学校の中に入れていただく機会を増やしたいです。

